

# 2010年度 入試問題分析シート

一橋大学

前期日程

科目

倫理, 政経 - 政治・経済分野

総括

試験時間	120分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	法 160、経済 160、商 125、社会 230点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

## <総論>

- ・ が「代表制と選挙制度」、 が「少子化の進行とその対策」をテーマとする問題であった。これまで、国際的な問題をテーマとするものが多く出題されてきたが、今年は、いずれも国内の問題を問うものであった。
- ・ 例年、基本的な原理・原則を時事的なテーマ(例:地球温暖化、郵政民営化、地方分権、少子化など)と結びつけて、論理的な文章が組み立てられるかどうかを試す問題が少なくなかったが、近年はそのような傾向が薄れ、単に知識を問う問題が中心となってきている。
- ・ の選挙制度、 の少子化問題は、いずれも比較的オーソドックスな内容で、受験生にとって論述しやすいものであり、歴史的な知識などが求められた昨年よりもやや易しい印象を受ける。

## <特記事項・トピックス>

- ・ 昨年の は400字の設問が1問、 は異例の6問構成となっていたが、今年は、400字を2~3の小問に分ける従来の形式に戻された。
- ・ は、公職選挙法と衆議院議員選挙の制度を述べる問題である。2009年8月の衆議院議員選挙で政権交代が実現したという時事的な内容を直接的に問うているわけではないが、内容的には出題が予想されたものである。問1、問2とも教科書レベルの知識で十分対応できよう。
- ・ は、少子化の問題点と対策を述べる問題である。問3は、「公共財」の視点から政府の少子化対策の必要性を述べる設問で、論理的な記述が求められる。具体的な少子化対策の内容(児童手当、子育て支援策、男女共同参画社会、教育費の軽減、「子ども手当」など)について述べる設問ではないことに注意が必要。

## <合格への学習対策>

- ・ 例年、時事問題を踏まえた設問が出題されている。それらの設問では、基礎知識の有無だけでなく、時事的な問題意識、データ・事案の分析力、文章の読解力、構成力、論述力など総合的な学力が試される。したがって、日頃から時事問題に関心を持ち、基本的な原理・原則と結び付けながら、自分の頭で考える習慣を身に付けることが大切である。
- ・ 一橋大、埼玉大、東京学芸大などの過去問(論述問題)に取り組んだり、新書レベルの本(岩波・ちくま・講談社・中公新書など)を読んで、大きな視点から論旨を100~200字の文章にまとめるトレーニングが有益である。

## 設問ごとの分析

問題番号	出題形式	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
	論述 100字 300字	代表制と選挙制度  代表制における「代表」の意味を検討しながら、日本の選挙制度の内容と特徴を問う。	問1 日本において選挙制度の公正さを確保するために存在する法律上の仕組みについて、その内容を選挙における公正な競争という視点からまとめる。 問2 現在、衆議院議員選挙で採用されている小選挙区比例代表並立制の内容と特色を、民意の反映という視点からまとめる。	やや易
	論述 50字 100字 250字	少子化の進行とその対策  「少子化社会白書」を題材に、合計特殊出生率の意味、少子化の問題点、少子化対策の必要性を問う。	問1 教科書レベルの基本用語であり、ニュースなどでも話題になるものなので、多くの受験生が書けたはずである。 問2 少子化の問題点を、労働力、社会保障制度、地域共同体の維持などの観点から述べればよい。 問3 政府の財政活動によって供給されるという「公共財」の特性を踏まえて、少子化対策の必要性を述べる。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは運動しません。